

### 第3回地震・津波災害に強いまちづくり検討委員会 議事概要

日時：平成24年10月9日（火）15：00～18：00

場所：吉田町役場2階「町民ホール」

#### <現地調査>

- 住吉小学校の屋上から吉田町のまち全域を見ると、まさに陸前高田市そっくりである。東日本大津波が襲った場合、この町は恐らく東日本大震災と同じ惨状になる。  
今、この吉田町がモデル地域として非常にいい地域だけに、地震津波災害に強いまちづくりのモデル地域として議論して頂きたいと考えている。

#### <議事概要>

- (1) 南海トラフ巨大地震の公表結果（中央防災会議 H24.8.29）
- (2) 吉田町地震・津波災害に強いまちづくりの検討について

#### <意見交換>

- 津波により浸水しても静かな状態と、波力がある場合がある。前に何も無い状態では、波に速度があり被害が大きくなる。前にたくさん家屋があったり、RCの家屋があれば力は弱くなる。これから、波の速度も考えた結果の被害予測結果が開示されるはずである。
- 一般的には、浸水深さ2m以上になると木造家屋はもたないというのがおおよその方向。人的被害については、もう少し浸水深さが低いところから発生してくるというのが一般的な考えである。
- 田原市でも津波に関し心配している地域の方が不安感を持っているが、耐震性については周知されていない。家具の固定も含めてまず地震対策が重要。この機会に強調していただくと良い。
- 地域ぐるみでの防災活動をどう活性化するか、吉田町は、そういったNPO組織とかはまだ整っていないようで、そこが課題。新しい住民も多いので、人間関係も作りながら住民の方々が一緒になってがんばっていけるような雰囲気作りが必要であると思う。
- 津波高1mの到達時間が4分であるが、2～3分は揺れている状態であるので、1分でどう考えるかということになる。ただし1mであるので津波がきているわけではない。
- 逃げられる場所にタワーを作るとは素晴らしいことだが、逃げることで全員が救われないので徐々に、土地の移動ということも誘導しつつ、耐震化と家具固定は大原則。
- 短期的にはこのようなことであるが、将来的にはこのような場所にまちを構えて行った方が、安全であると見据え、新しいまちづくりの方向を視野に入れつつ、そこはコンパクトシティなのか、集約型のまちづくりなのかを判断していく。
- 老人施設など弱者の施設は海側でなくて高台の方に移転させるということから作っていかないといけない。保育園児なども遠くへは逃げられない。
- 今日現地調査をして皆さんショックだったのは、新築の建物が浸水区域の中に沢山あったことだと思う。新築の建物がより安全なところに作られていくように誘導することが今後必要。

- 環境面でも福祉の面でも良い、町として将来のあるべきまちの姿を持つ。これからインフラの維持というのは問題があり、調整区域の中にバラバラにあるとインフラは維持できないので、職住近接などの吉田町の将来のビジョンみたいなものがあって従来無かった安全性みたいなものを付与し、50年後、100年後こんなまちだとよいと思うものをだして、そこに町民が徐々に移っていくことができるようにしていく。
- 50年後を考える時は、東海・東南海・南海地震が来た後で、どういういいまちにするかは相当フリーハンドで書けるはずである。
- 市街化調整区域にまちを移動させるためには、インフラ整備をしなければならぬ。また、既存のインフラを捨てることになる。少しずつまちを誘導するというのが大事である。
- どういうまちを作っていくかということは、お金の投資も必要で、それを一緒に考えながらやって行く必要がある。無駄のない形でやっていく必要がある。
- 昔から住んでいるところは良さがあるはずで、一番悪いのは、調整区域に無計画なまま移って行くこと。もしも今の町が全然無かったらという想定で、安全で効率的な場所はどこでどうやって整備していくか一度考える必要がある。
- 吉田町は河川があるので流域圏という考えがあると思う。高いところにポツンと行くのではなくこれまでの経緯とか交流があったところとか、流域圏とか河川を見た緩やかな誘導というのもあると思う。
- 落とすところは、現状維持とコンパクトシティの間にあると考えられる。特区については、産業系の特区が想定されているようだが、低炭素まちづくりとも連携しつつ、ここに住宅も含めた他の用途を入れることも視野に入れると良い。移転したい人が安全で快適な場所に住めるようにすることは必要だと思う。
- 津波対策で海岸沿いから内陸側の平地に住居や施設を移していくのは有効ではあるが、吉田町付近では現在水田等で利用されている平地の多くが軟弱地盤で液状化の危険性があり、洪水に対しても弱いことに十分注意が必要である。
- 重量鉄鋼造とかは2階建てでもフラットな屋根にすれば建築の工夫で屋上に逃げられ助かるのかなと思う。名古屋市は、建築防災条例を臨海部で作っている。それは平屋建てだったら屋根に逃げられるような脱出口を作るようになっている。浸水の深さを考えて3階建て以上を推奨することもいいと思う。
- 中高層のビルは避難ビル指定することもある。町営住宅を4階建てとかにして近所の人も逃げることができるモデルにできるのではないか。
- RC化については大きな反対はなかった。ただ積極的に進めるというまではなかった。
- 嵩上げについては、委員の皆さん、顔でどうかなという感じがあったかと思う。
- 工場が多く立地しているが、災害にあうと本社ではないのですぐ撤退とするなどクール、シビアであるが、企業との連携は重要で、日頃からの連携の延長上に災害時にも企業とうまく連携できるような関係を作っていけば吉田町の特徴であると思う。
- 企業のBCP計画と町のBCP計画の調整を図りながらやっていく必要がある。